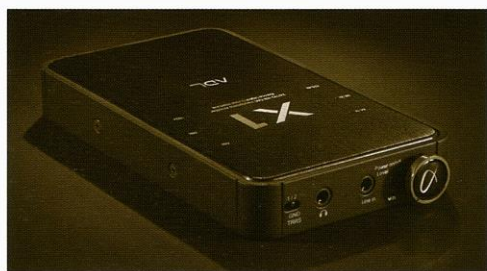




P ORTABLE / ポータブル

|| ADL || **X1** ¥39,800

ひんやりとした餅肌の質感。ハデな音ではないが魅力的



●入力：アナログ×1（ステレオミニ）、USB×2（mini-B/Type-A） ●出力：ヘッドフォン/光デジタル×1 ●外形寸法：68W×16.5H×118Dmm ●重量：約142g

4色のカラバリ、握るとしっとりするゴム製の枠。外側のデザインはシャレてるが、多機能なだけで、やっぱり掴みどころがないなあ。イヤフォンをつなぐと少しヒスノイズがあるのは嫌だぜ。という印象が変わったのは、Macにつなぎ、Audirvana+で再生、TH900で聴いた時だ。広く立体的な空間に精確な音源配置。細部のリアリテ

ィが美しい。音の空間がというより、音そのものがあくまでも透明、冷たいくらいなのに、その音質が音楽を引き立

てる。SP復刻の表面ノイズまで美しい。

iPod touchにデジタル接続しても、イヤフォンを挿しても、ひんやりとした感触はまるで餅肌。音楽が耳に吸いついてくる。DACチップの特性だけではないでしょう。同じチップを使ってもこうはならんよ。そうするとヒスノイズも気にならなくなる。

外で使う時はノイズなんか聴こえないし。ハデな音ではないが、のめりこむと離れられなくなりそうだ。

(おおしま)

お薦めのヘッドフォン

気にならなくなるが、やはりイヤフォンよりヘッドフォンの方が好みと見える。前はオープンが合うと思ったけれど、改めて聴くとクローズドの方がこの冷たい音を活かすと思う。ADLも密閉型を出してるし。

Connection 接続ケーブルの選択

|| ADL || **GT-30P** ¥11,200(0.10m) / ¥11,800(0.18m) / ¥14,800(1.0m)

Dock 端子の iOS 機をハイレゾに誘う 30 ピンケーブル

3層シールドで銅銀合金線材を包み込む Dock-USB ケーブル。コネクター以外の構造は GT8-A と同一の仕様であり、音圧よりスピード重視で高域の伸びやかさに優れるというサウンドの傾向は同一。再生機が iPhone4 / 旧 iPad 世代ということもあってか、ほんのわずかなだけ柔らかさも覚えたが、目指す世界に変わりはない。圧縮音源、また WAV であっても全フレーズにおいて音圧を高めたトラックだと、GT-30P の個性が塗りつぶされる。繊細な

表現を、より繊細に楽しみたいユーザーでこそ使いこなせるケーブルと心得よう。ケーブル長は 0.1m、0.18m、1m。Lightning 制御チップを省いているためか、GT8-A よりも購入しやすい価格帯となっている。

繊細かつ広大な音場を再現できるヘッドフォン / イヤフォンとの組み合わせが好ましい。高解像なヘッドフォンアンプ、そしてファイナルオーディオデザインの上級機を持つユーザーは一度使ってみてほしい。(武者)



|| ADL || **GT8-A** ¥13,000(0.10m) / ¥13,600(0.18m) / ¥16,000(1.0m)

ハイレゾ音源の機微を iPhone・iPad で表現できる

Lightning 採用の iOS デバイスとデジタル対応ヘッドフォンアンプを接続するためのケーブルで、iPhone5 系でハイレゾ音源を楽しむなら必須ともいえる。デジタルケーブルでも線材の質・シールド構造によって音質が変わるのは事実。しかしその差は微々たるもので知覚しにくい製品も多かったが、GT8-A は違う。特に録音現場の空気感もデータ化されているハイレゾ音源を再生すると、音場がより広く、深くなる。折り重なった間接音が美味

なホールトーン、デッドニングされた録音スタジオ、それぞれの現場の空間が見えてくる。0.1m、0.18m という、モバイルシステムに最適な長さのモデルが用意されているのも同製品のセールスポイントだ。

ノイズ対策の賜か、高域の再現品質が高い水準で維持される。ゼンハイザー HD800 や AKG Q701 といった開放型オーバーヘッド、またはマルチ BA ドライバー搭載イヤフォンと合わせてこそ真価を発揮する。(武者)

